

科目名称	教職員職能開発と研修プログラムの開発（昼間） (担当教員名： 浅野良一，大野裕己)		
課程	大学院（専門職）1年次	開講学期	前期
授業形態	講義・演習	授業規模	受講者 21人
インタビュー対象教員名	浅野良一 (実施日時：7月15日（水）13時20分～13時50分；実施場所：総合研究棟3階小会議室)		
インタビュー対象受講者名	宮本美枝子，山下剛功 (実施日時：7月9日（木）13時～13時30分；実施場所：総合研究棟3階小会議室)		
選定理由	<p><u>1. 授業担当教員へのインタビュー（概要）</u></p> <p>授業の工夫点としては、授業構造や目標を緻密に作成し、学生の評価に加え教員の自己評価による授業改善に努めている。また、理論だけでなく現実に結び付けるために、グループ演習などの実践を取り入れた授業を行い、学生が自分なりの理論化を促す工夫をしている。さらに、リフレクションシートに基づいた参考資料を配るなど、わかりやすく、役立つ、その後の学修のきっかけとなる授業づくりとなっている。</p> <p>目的意識がはっきりしていたり、授業外でもフィールドワークに行ったりなど、受講者の参画度も高いと判断できる。</p> <p><u>2. 受講生へのインタビュー（概要）</u></p> <p>演習が多い、先生の引き出しが多く、知らないことを教えてくれる。授業全体が構造的で、意識付けもしてくれる。さらに、毎回の振り返りが冊子にして配られるだけでなく、必要な資料も配られる等が挙げられた。</p> <p>自由記述に挙げられていた「資料が豊富」という点では、具体的なデータや情報等が惜しみなく提供されること。また、「授業内容がバラエティに富む」という点では、実際に教員の研修プログラムを開発するグループ演習をしたり、地方自治体の教員評価育成システムを改善する演習をすることで実践力がつくという感想があった。この他、現場で必要な知識ばかりであること、知らないことがたくさんあることが再確認されたこと、講義に関連し自主的にフィールドワークに行った人もいる等、知的好奇心も刺激されたようだった。</p> <p>受講生の様子も、少人数であること、授業のスピードが速く情報量が多い等の理由から、熱心に授業を聴くなど、参画度も高いようだった。</p> <p><u>3. 総括</u></p> <p>先生の意図と受講生の感じている事がおおむね一致していることで、授業の満足度が高いようであった。</p> <p>具体的には、理論と実践の結びつきが意識されているため、自分の考えが深まり、現場に戻っても使いやすいように工夫されていること。また、リフレクションを通じた参考資料の追加配布など、資料が豊富であり、学びを深められているようであった。</p> <p>上記のことや、担当教員自身も自己評価をして、授業改善に努めていることが、受講生の参画度が高いことにつながっており、ベストクラスとしてふさわしいと考えられる。</p>		

